

# 第48回交通安全子供自転車全国大会で 千代川小学校が11位の健闘 (8月7日、東京ビッグサイト)

大会には、1,095小学校・1,400チームが参加した地方予選大会と、全国47都道府県大会を勝ち抜いてきた47チ



大会本番では、約1年間にわたって授業前や放課後に、また夏休みに入ってからも熱心に練習を重ねてきた成果を存分に発揮し、伸び伸びと競技に取り組みました。結果は11位で、惜しくも入賞を逃しましたが、チームの仲間と協力しながら過ごした時間は、大切な思い出になることでしょう。

# 亀岡生き物大学「保津川水辺の学校」を開催

(8月3日、保津川河川敷)



保津川に生息する生き物の観察を行い、川の現状や自然保護の大切さを学ぶ「保津川水辺の学校」を開催しました。当日は、生き物大学を受講している市内の小・中学生と保護者など約150人が参加。強い日差しが照りつけ

中、子どもたちはライフジャケットを付けて、川の中へ。メダカやフナ、カメなどが次々に網にかかる。「見つけた!」とあちこちから歓声が上がりました。その後、京都大学の岩田明久教授と京都学園大学の大西信弘准教授から、この日つかまえたさまざまな生き物の特徴について説明があり、子どもたちは熱心に聞いていました。今年初めて参加した乙坂勇人くん(安詳小学校4年生)は、「魚が大好きで、今日を楽しみにしていました。魚の居場所が分かったし、たくさん捕れてうれしかったです」と話していました。そのほか、参加者全員で、川の周りのごみ拾いを行い、自然環境を守る大切さも学びました。

# 大井神社立花行事 (8月19日、大井町)



「立花」と呼ばれる特殊な花を奉納し、花祭の名で知られている大井神社の立花行事が今年も行われ、浴衣姿の家族連れや写真愛好家から多くの人が訪れました。立花は左右対称の1対からなり、「ボク(木)」と呼ばれる松の古木に、生木の松の枝をあらって松葉を植え込んだり、菊の花で装飾するなど、地元6地区の氏子がそれぞれ丹精

込めて作り上げ、神前に献花されます。江戸時代には行われていたとされる大井町の立花行事は、華道が大成する以前の姿を残すものとして、その文化的価値の高さから、京都府の無形民俗文化財に指定されています。友人らと参拝に訪れた田口初美さん(千代川町)は、「初めて見ましたが、どの立花も装飾が工夫されていて、それぞれ異なった趣があり素晴らしいですね。立花行事は、古くから行われても伝統があることを知り驚きました」と話されていました。

当日は、神事以外にも境内で、「大井町夏祭りの夕べ」が催され、特設ステージで華やかなショーが繰り広げられたり、多数の夜店が立ち並び、神社一帯が祭の雰囲気になりました。

# 佐伯灯籠 (8月14日、稗田野町)



稗田野町と吉川町にまたがる旧佐伯郷の4社(稗田野神社、御霊神社、河阿神社、若宮神社)の出会い祭りである佐伯灯籠は、五穀豊穡を願う神事と、祖霊の冥福を祈るお盆の灯籠行事が結びついた全国でも珍しい祭りで、平成21年3月には、国の重要無形民

俗文化財にも指定されています。祭り当日の午後1時30分、灯籠や神輿を担いだ一行が稗田野神社を出発しました。若宮神社、河阿神社の一行と合流し、御霊神社に集結。そこでは大松明が焚かれ、そのすぐ横を勇ましい掛け声と共に神輿が往復する迎神行事が行われました。夜には、佐伯灯籠資料館で人形浄瑠璃を上演。独特の語り口で小さな人形を1人で繊細に操る様子は、佐伯ならではの地域的特色を色濃くとどめています。最後に、稗田野神社前で「太鼓掛け」や「灯籠追い」が行われると、祭りの盛り上がりは最高潮を迎えました。

最後に、稗田野神社前で「太鼓掛け」や「灯籠追い」が行われると、祭りの盛り上がりは最高潮を迎えました。

# J1目指してがんばれ京都サンガFC! ~亀岡市民観戦ツアーを開催~



△たくさんのサンガサポーターで埋め尽くされたスタンド

7月27日、サッカーJ2リーグ、京都サンガFC対アビスパ福岡の市民観戦バスツアーを開催しました。

当日は104人の参加者が、3台のバスで試合会場の西京極総合運動公園陸上競技場へ向かいました。多くのサポーターが見守る中で行われた試合は、FWの原選手が2ゴールを決める活躍を見せた他、GKのオ・スンフン選手の好セーブもあり、京都サンガFCが2対1で見事勝利を収めました。観戦した皆さんは、「素晴らしい試合でした!」「初めての観戦でしたが、会場の一体感と熱気がすごい!」「勝つてよかったです。また見に行きます」などと話されていました。

多くのサポーターが見守る中で行われた試合は、FWの原選手が2ゴールを決める活躍を見せた他、GKのオ・スンフン選手

第三百四十六回  
文化財めぐり  
明智光秀と亀岡 (19)

細川ガラシャ  
細川ガラシャは、明智光秀の娘玉子として、永祿6(1563)年に生まれ、16歳で織田信長の意向を受け、細川藤孝の嫡男、忠興と結婚します。ところが、父、光秀が本能寺の変で信長に反逆、山崎の戦いで豊臣秀吉に敗死します。当時20歳の玉子は、味土野(現京丹後市)に2年間も幽閉されます。父への心境を知る由もありませんが、「謀反人の娘」の烙印が押されたことは確かでした。

後に秀吉に許され再婚しますが、忠興との不仲もあり、玉子はキリスト教に救いを求め、25歳の時に洗礼を受けます。その洗礼名が「ガラシャ(迦羅奢)」で、恩寵という意味がありました。秀吉の死後、徳川家康と石田三成の対立が激化する中、三成は家康方の武将たちの家族を人質にするため、大坂城下の屋敷に軍勢を差し向けます。一番の狙いはガラシャでした。ガラシャは敢然と拒否し、キリシタンとして自身が許されないため、家臣に命じ自身を切らせるという覚悟の最期を遂げます。慶長5(1600)年7月、38歳の一生でした。天下分け目の合戦、関ヶ原の戦いのわずか二カ月前で、三成の謀略を失敗させたガラシャの決然とした態度と行動は、「謀反人の娘」という烙印から一転、「武門の誉れ」として高く評価されました。

京都サンガFCへの  
応援メッセージ集

- ▼連勝でJ1昇格だ!がんばれサンガ!(11歳男性)
- ▼目指せJ1、これからも応援します!(24歳女性)
- ▼J1リーグを京都から盛り上げよう!(13歳男性)
- ▼亀岡のスタジアムをサンガのホームに!(39歳女性)
- ▼J1昇格を期待しています!(72歳男性)
- ▼これからも観客を魅了するサッカーを!(24歳男性)

\*次回の市民観戦ツアーは、10月27日(日)、コンサドール札幌戦を予定しています。詳しくは、9月15日号の「おしらせ」をご覧ください。お問い合わせ先は、社会教育課スポーツ振興係(☎25・5055)までお問い合わせください。